

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年3月4日(月)～10日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

詩篇を読みます。今週は 44 篇から。

3月4日(月)

今日の聖書日課：詩篇 44：1～26

立ち上がって 私たちをお助けください。御恵みのゆえに 私たちを贖い出してください。

詩篇 44：26

神への信仰告白から始まる 44 篇ですが、読み進めると詩人は窮地にいたことがわかります。その中で神の助けがないと彼は嘆くのです。信仰を失うことはありません。ひたすら神の恵みを求めています。そして冒頭の聖句で終わります。これで終わり？何の解決もないではないか？！神はいったい、どのように応答されたのでしょうか？それは詩人とその民を「贖い出す」こと。今、私たちは知っています。イエス・キリストの十字架と復活によって自分が、自分たちが贖いだされたことを。神のものとされたことを。旧約の問いを、新約で答える。尻切れのような詩に、しかししっかりした着地点があるのです。

3月5日(火)

今日の聖書日課：詩篇 45：1～17

あなたは義を愛し 悪を憎む。それゆえ 神よ あなたの神は喜びの油を あなたに注がれた。あなたに並ぶだれにもまして。

詩篇 45：7

45 篇はユニークです。神ではなく、王をほめたたえる歌。「あなたは人の子らにまさって美しい。あなたの唇からは優しさが流れ出る。神がとこしえにあなたを祝福しておられるからだ。」(2)。人間の王を賛美しているのです。しかし冒頭の聖句。なんと詩人は王に対して「神よ」と呼びかけます。そして「あなたの神は…」と神である王には神がいると言うのです。人間を神格化してはいけません。旧約の律法が明確に禁じているのに。

これもまた旧約の問いを新約で答えていることがわかります。すなわち、この王はメシア、キリスト・イエス。「私はあなたの名を代々にわたって呼び求めよう。それゆえ 国々の民は 世々限りなくあなたをほめたたえよう。」(17)。主イエスは全世界の王、救い主です。

3月6日（水）

今日の聖書日課：詩篇 46：1～11

「やめよ。知れ。わたしこそ神。わたしは国々の間であがめられ 地の上であがめられる。」

詩篇 46：10

主は、誰に向かって「やめよ」と言われているのか？その前の節「主は 地の果てまでも戦いをやめさせる。弓をへし折り 槍を断ち切り 戦車を火で焼かれる。」(9)を見れば、戦っている者同士。主は戦いを「やめよ」と命じられるのです。「万軍の主」(11)はイスラエルの神。しかしイスラエルだけではありません。「国々の間であがめられる」この世界のすべての国の神。ロシアとウクライナが、イスラエルとハマスに対しても主は語られます「やめよ」と。戦争をしているすべての国々が、主こそ神であることを知ることができますように。

3月7日（木）

今日の聖書日課：詩篇 47：1～9

すべての国々の民よ 手をたたけ。喜びの声をもって 神に大声で叫べ。

詩篇 47：1

昨日の46の続きと言っているでしょう。イスラエルの神、主が「国々」すなわち、地のすべての国々の神であることを表しています。しかし詩人自身はイスラエルの民。「国々の民の高貴な者たちは集められた。アブラハムの神の民として。まことに 地の盾は神のもの。神は大いにあがめられる方。」(9)。「アブラハムの神の民」すなわちイスラエルが主導して、主を全世界に宣べ伝えるのです。そしてその宣教によって主を信じた者たちもまた「アブラハムの神の民」と呼ばれるのです。これもまた新約の時代に明らかにされるのです。信仰による義は割礼を受けていない人にも与えられるのです（ローマ4：10）。

3月8日（金）

今日の聖書日課：詩篇 48：1～14

主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。主の聖なる山 私たちの神の都で。

詩篇 48：1

詩篇48篇は、主へ賛美であると同時に、「神の都」エルサレムを喜ぶ歌。そこには主の「宮」があり(9)、「城壁」・「宮殿」がありました(13)。しかし、詩人は都を賛美するのではなく、あくまでも主をほめたたえます。「この方こそまさしく神。世々限りなく われらの神。神は 死を越えて私たちを導かれる。」(14)。このようにこの詩を閉じます。

今、私たちもまた、教会を喜びます。そこで神を礼拝し、互いに喜び憩います。しかし教会を誇るではありません。教会の主であるイエス・キリストさまを今日も、心からほめたたえましょう。

3月9日（土）

今日の聖書日課：マタイ 22：23～33

『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。」

マタイ 22：32

神は「アブラハムの神だった」ではなく「アブラハムの神…である」。今日も生きている者の神であるお方を、仰ぎましょう。

3月10日（日）

主日礼拝説教箇所：マタイ 22：34～46 「人生で一番重要なこと」 主に期待します。